

日教組 両性の自立と平等をめざす 教育研究会

8月3（月）・4日（火）、日本教育会館にて、「2015年度 両性の自立と平等をめざす教育研究会 「ジェンダー平等教育をすすめよう ～小さな気づきから、大きなうねりへ～」」が開催されました。基調報告後、女子栄養大学 大学院教授の橋本紀子さんが「ジェンダー・セクシュアリティと教育をめぐる現状と課題」という演題で講演を行いました。安倍政権が進めている「労働者派遣法」の改悪、セクシュアリティをめぐる国際的動向、海外の性教育関連教科書などについての課題や展望を述べられました。午後は、シンポジウム「ジェンダー平等教育をすすめよう」が行われました。NPO法人ファザーリングジャパン安藤哲也さんや鹿児島県教組喜入智子さんらによる意見交換がされました。



2日目は、4分科会に分かれ



- ①ジェンダー平等教育を考える ～意識・慣習を変革する～
- ②労働教育とジェンダー ～女性が働き続けるために～
- ③男性とジェンダー
～いじめ・暴力を男らしさから読み解く～
- ④性と生 ～セクシャルマイノリティの理解と配慮～

について、熱心な議論が展開されました。

参加者の感想

・医学的にも性は2種類ではないということで多面性を実感することができ、とても分かりやすい話でした。大変有意義な研修であり、今後の教育活動において意識していかなければならないことでした。現職教育で報告し、共通理解を図っていきたいです。

・分科会では異なった県の6名が一つのグループになりました。男女別整列・男女混合名簿など進んでいない県が多くあることにやや驚きでもありました。また、現場の教員（特に男性）が全くジェンダー教育に関心を示さず、意識の低さが大きな悩みであると漏らす先生もおられました。

・セクシャルマイノリティへの理解不足から差別や偏見につながり、自傷行為や引きこもりにつながることを学校での人権教育は大切であると感じました。性別に関係なく誰もが生きやすい社会を構築するために、学校の果たすべき責任は重いと感じました。

・性的マイノリティの割合は少なく見積もっても5%だそうで、今までそのような子がそんなにいるとは思わなかった。多くの子は親が味方にならず、仲間にも出会えず孤立していじめの対象になり苦しんでいるらしい。教育相談の重要な対象として考えていかねばならないと思った。